

## 1 研究主題

## 自他を認め、多様な他者と共に高め合う児童の育成

～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指して～

## 2 研究の具体

本校は、今年度心と体づくりを土台として、学びづくりを研究の中心としている。また、研究授業では「さめきの教員 授業づくりの三訓」のうちの「しかけて待って 語らせつないで」の2つに焦点を当てて取り組むことにした。

## 【視点1】個の特徴を生かしたきめ細やかな指導や学びの場の設定（しかけて 待って）

## (1) 児童の特性に応じた指導方法や教材の工夫（指導の個別化）

- ①個の特徴や得意・不得意などの把握
- ②写真や文章などの教具の提示



## (2) 自己選択による個の考えの表出（学習の個性化）

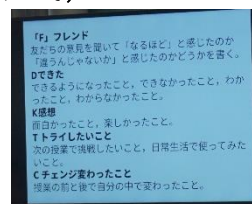
- ①自己選択の方法の工夫
- ②個の考えを構築し広げる場の設定



## 【視点2】考えやよさを生かす協働的な学びの場の設定（語らせ つないで）

## (1) 単元を見通した学習活動の流れ

- ①自分事として捉えられる学習のめあてや話し合い活動
- ②自己の変容に気付くための振り返りの視点を提示



## (2) ICT 機器の活用

考えを共有するための道具としての活用



## (3) 児童が違いを認めて協力し合える学習集団づくり

- ①自己肯定感や自己有用感の育成
- ②他者の考えを踏まえた上で自分の考えを伝える話し方



## 3 研究の検証および改善の手立て

- R5年度香川県学習状況調査の質問紙項目を使い全学年にアンケートを実施した。4月に比べ、11月は、「普段の授業で学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたり深めたりできた」と肯定的に答えた児童の割合が9%多くなっていた。
- しかけて待って語らせつなぐための具体的支援を指導案に明記し、授業討議や協議を積み重ねることで、学びの場の有効性について考えを深めることができた。
- 「自分にはよいところがあると思うか」の質問に肯定的に答えた児童の割合が2%減ったことから、子どもが自分の言動に安心感や自信をもったり、多様な考えを出し合うよさを感じたりする授業に取り組む必要がある。